



日欧合同 「スマート・エイジングのための仮想コーチ」 中間会議

2022年7月14日（木）16:00-20:30
7月15日（金）16:00-20:30



日本のコンソーシアムは、総務省より助成金を受けています（助成金番号: JPJ000595）。
EUのプロジェクトは、欧州連合H2020プログラムより、助成金契約番号101016453の助成を受けています。



中間会議プログラム

参加登録フォーム（日本語）<https://forms.gle/MwXEERcoErWDFncTA>

WHOによると、世界の人口は過去に比べて速いペースで高齢化しており、この人口動態の推移は世の中のあらゆる側面に影響を及ぼすと言われています。そのような背景のなか、高齢者自らが自立し、自身が大事にしていること（生きがい）を継続しながら社会の一員であり続けるためには、「社会のあり方」のあらゆる点において、高齢化というこの歴史的な変化に適応することが必要です。

本会議では、日本とヨーロッパの高齢者に対してスマートテクノロジーを用いた人に寄り添うケアと高齢者のウェルビーイングをサポートするため、予防やスマートリビングソリューションに関する新しいコンセプトをご紹介します。

具体的には、日欧共同研究開発「e-VITA」プロジェクトと、高齢者ケア、アクティブエイジングのためのスマートリビングソリューションに関する研究から提示されます。e-VITAプロジェクトは、「Made in Japan」の優れた技術と「Made in Europe」の優れた社会工学に基づき、両分野の最先端の機関や専門知識を融合することで構築されており、Society 5.0（日本）とDigital Europe（EU）のコンセプトに沿ったものです。

今回の会議は、日欧間の国際協力の足がかりをつくるのはもちろんのこと、日本、ヨーロッパ、ひいては世界においても一連のソリューションサービスをビジネスモデルへと導く機会になることは間違いありません。またこうした事例は、スマートリビングベンダーはもとより、中小企業や信頼のおけるAI研究開発センター、産業界、地域コミュニティ、介護関係者に至るバリューチェーン全体の出現も促します。幅広い可能性を求めている方にとって魅力的な場になれば幸いです。

第1日目 2022年7月14日(木)

**第1セッション - 地域に暮らす高齢者の仮想コーチのための知識認識型会話型AI
(16:00 - 18:00)**

e-VITAプロジェクトの技術的な部分は、会話型AI、知識グラフ、センサー技術に関するキーテクノロジーと、様々なインターフェースエージェントで使用できるようにするためのモデルの実装に重点を置いています。また、e-VITAコーチの技術やデバイスの統合は、データの共有、インフラ、モジュールのシームレスな運用といった重要な問題に対処するため、標準化や倫理的な問題に関係しています。

本セッションでは、これらの技術をより詳細に調査し、特にe-VITAで扱うユースケースや関連する他のAIアプリケーションへの応用に焦点を当てます。講演は、著名な基調講演者とe-VITAプロジェクトの参加機関によって行われます。

16:00 - 16:15 歓迎の辞

辻井潤一(産業技術総合研究所), フォルカー・ヴルフ(ジエゲン大学/ドイツ),
瀧 靖之(東北大学)

司会 クリスティーナ・ヨネキン(産業技術総合研究所)

**16:15 - 16:45 第1セッション - 地域に暮らす高齢者の仮想コーチのための知識認識型
会話型AI**

司会 クリスティーナ・ヨネキン

特殊領域における言語を基にした人間とAIの協同

イリーナ・グレウウィッチ(ダルムシュタット工科大学 UKPラボ/ドイツ)

16:45 - 16:55 ディスカッション**16:55 - 17:00 休憩****17:00 - 17:15 高齢者の幸福度を向上させるための会話型コーチング**

マリア・イネス・トーレス(バスク大学/スペイン)

17:15 - 17:30 サービスロボットと標準化

吉見 卓(芝浦工業大学)

17:30 - 17:45 高齢者支援に向けた人間行動知識組込みAIの開発

福田 賢一郎(産業技術総合研究所)

17:45 - 18:00 ディスカッション**18:00 - 18:10 休憩**

第1日目 2022年7月14日(木)

第2セッション - 元気に年を重ねるためのICT支援 (18:10 - 20:30)

健康分野、そしてまもなく高齢化分野でも、デジタル化が始まります。目標は、個別化医療と個別化ケアになるでしょう。私たちのプロジェクトe-VITAは、人々のための仮想コーチを開発し、将来の個別化されたケアのための基礎を築いています。このプロジェクトは、AIが活躍する社会、Society 5.0のコンセプトと非常にマッチしており、e-VITAのシステムでは、現実世界のセンサーからデータ収集をし、AIで分析を行い、結果を現実世界にアドバイスとして返します。これにより、医療の最適化・個別化が進み、エイジングケアのための個別アドバイスや個別ケア戦略が可能になります。

18:10 - 18:15 第2セッション - 元気に年を重ねるためのICT支援

司会 大原亜砂子(ミサワホーム総合研究所)

18:15 - 18:45 高齢先進国の日本が目指すウエルビーイング

澤岡詩野(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団)

18:45 - 18:55 ディスカッション

18:55 - 19:00 休憩

19:00 - 19:15 生活環境における幸福度の測定

ジャン・マルコ・レヴェル(マルケ工科大学/イタリア)

19:15 - 19:30 MCI高齢者におけるバーチャルコーチ・アプリケーション、H2020バリューケアの経験

オスカー・ザヌート(マルケ工科大学/イタリア)

19:30 - 19:45 個々に寄り添ったロボット支援型ケアシステム: 社会生態学的アプローチが重要な理由

小舘 尚文(アイルランド国立大学ダブリン校/アイルランド)

19:45 - 20:00 ディスカッション

20:00 - 20:05 セッション終了の辞

20:05 - 20:25 e-VITAコーチプロトタイプの実演デモンストレーション

Engineering/イタリア, ライプツィヒ大学応用コンピュータ科学研究所/ドイツ, 産業技術総合研究所

20:25 - 20:30 閉会の辞

ライナー・ウィーテング(ジューゲン大学/ドイツ), オガワ淑水(東北大学)

第2日目 2022年7月15日(金)

**第3セッション - 日本と欧州における超高齢社会対応のための政策展望
(16:00 - 18:00)**

急速にデジタル化が進む社会において、デジタル技術にアクセスし、それを利用する機会を平等に与えられることが、社会参加には不可欠です。ところが、高齢者がデジタル技術を利用したり、利用方法を学んだりする能力に関して、ある種の強い固定観念を持たれやすいのが実情です。

このセッションでは、テクノロジーの採用を阻む様々な障壁を取り上げ、この切実な問題に対処するための提言を行います。

16:00 - 16:15 歓迎の辞

持丸正明(産業技術総合研究所), ライナー・ウィーチング(ジューゲン大学/ドイツ),
オガワ淑水(東北大学)

司会 本間敬子(産業技術総合研究所)

16:15 - 16:45 第3セッション - 日本と欧州における超高齢社会対応のための政策展望

司会 本間敬子

デジタル技術の導入と利用の障害となるエイジズムに対処するための政策措置

ハンナ・ケトル(AGEプラットフォーム・ヨーロッパ/ベルギー)

16:45 - 16:55 ディスカッション**16:55 - 17:00 休憩****17:00 - 17:15 高齢者との包括的な共創**

ルーベン・アルバース(ジューゲン大学/ドイツ)

17:15 - 17:30 日本の高齢者ユーザーから見たリビングラボの印象

ライアン・ブラウン(東北大学)

17:30 - 17:45 高齢化、デジタルの包括と分裂

マルコム・フィスク(デ・モントフォート大学/英国)

17:45 - 18:00 ディスカッション**18:00 - 18:10 休憩**

第2日目 2022年7月15日(金)

第4セッション - 活用 - シルバー経済とマーケット (18:10 - 20:30)

近い将来、日本や欧州でe-VITAコーチが高齢者の日常生活に身近な存在となるためには、高齢者のライフスタイルやマーケットを分析し、どのように高齢者に届けるかを探ることが重要です。実際、高齢者をターゲットにしたビジネスは、世代別に分けるといったマスマーケットから始めると成功しにくいと言われています。では、具体的にどのように進めていけばいいのでしょうか？

本セッションでは、その答えをマーケットとビジネスの視点から紐解いていきます。

18:10 - 18:15 第4セッション - 活用 - シルバー経済とマーケット

司会 オガワ淑水(東北大学)

18:15 - 18:45 日本の高齢者 8つのライフスタイル分析

富田真司(日本元気シニア総研)

18:45 - 18:55 ディスカッション

18:55 - 19:00 休憩

19:00 - 19:15 シニアマーケティング

西崎修司(Gatebox株式会社)

19:15 - 19:30 ヨーロッパにおけるデジタルヘルスリテラシー - ドイツの健康保険業務における新しいツールセットの導入

カイ・コルパツイク(AOK:最大手保険会社/ドイツ)

19:30 - 19:45 高齢者の早期予防のための世代間、反復的でやりがいのあるアプリやビデオゲームの開発

ジェラルール・コルネ(YM大学老年学研究所/フランス)

19:45 - 20:00 ディスカッション

20:00 - 20:05 セッション終了の辞

20:05 - 20:25 e-VITAリビング・ラボ実験結果紹介

国立高齢者医療研究センター/イタリア, 東北大学

20:25 - 20:30 閉会の辞

オガワ淑水(東北大学), ライナー・ウィーチング(ジューゲン大学/ドイツ),
クリスティーナ・ヨキネン, 本間敬子(産業技術総合研究所)